炭鉱の坑内の写真。ちよつとした保安を見過ごせば、とんでもない災害につながるから恐ろしい。

会社は――

組合の要求にこたえよ

保安に手抜なかったか

保安団交で災害責任追及

別項の記事にあるように、三川鉱で起きた落盤災害は、テレビや新聞がくり返し指摘しているように、明らかに、またしても三井石炭の保安軽視・生産第一主義によってくり返されたものだった。

三池労組は、十五日会社との間に保安団体交渉をもち、次の三項の要求を提出した。

一、今次災害の会社の責任を明確にせよ。

二、遺族に対し、万全の措置を取れ。

三、保安点検・保安日対策の強化と、今後の保安確立のため万全を期せ。

問題点は多い

災害が起きた知らせを聞くと、執行部はすぐ現場にさがるなど対策に当たってきた。なかでも中原一労働部長は、調査結果をひとまず総括したが、それによると、現場には断層が走っており、また水つき（天盤から雨ダレが落ちる状態）で、そのうえ足もとの坑道はやわ盤（地盤が軟弱）で、ところによっては、歩くうち膝下ほどまで地中にぬかるむほどだった。

それに天盤をささえる角目（カリグメ）枠から、二・九トンの原動機をつって作業していた。ちょうど掘進の一番方が作業終了し、やがて二番方がやってきて仕事を続けるに必要なパンツアーコンベヤーを敷設することがいそがれたためだった。

「原因は、これらの条件が複合して起きた」と指摘、次の問題点をあげている。

(1)保安日（二カ月に一回行ってきている）のその日、果たして作業開始時刻から三十分間にわたる所定の点検が実施されたか。

(2)採炭の進行に対して、著るしい掘進の立ち遅れをとりもどすために急なあまり、保安が怠られたのではないか。

(3)一番方と二番方との短い交代時間のなかで、一部いや応なしに緊急の作業を行うための残業が強制されてはいないか。

(4)「注意してくれ」との申し継はあったにしても、それもマンネリ化して、果たしてあの悪条件の環境に対する具体的な手だてがあったかどうか。

(5)機械と電気ともに間接工だ。そんな、坑道維持の、本来の経験者のいない者ばかりに、「ここはあんたたちで頼む」と、軽い作業指示で終ってはいないか。

×

現場に働いた労働者で、「以前なら、まず掘進が坑道を掘り進むと、次に電気工が配線し、その次に機械工がやってきて原動機を据えつける。すると最後に電気がやってきて、結線する。こんな手順でやっていたが、今は何もかもいっしょくたに繰りこまれて、ごっちゃごちゃ。またそうしないと金にならん」、と怨るべき職場の実態を語ったが、会社は真剣に三池労組の要求にこたえるべきだ。

炭労現地対策委がスタート

炭労は三川鉱で重大災害が発生すると、いち早く大江静夫次長を三池に派遣、三川鉱災害現地対策委員会をつくり、具体的な対策の実行に当たった。

社会党の災害調査団が来組

三川鉱で重大災害発生と同時に社会党から細谷治嘉・衆議院議員を団長とする災害調査団がさっそく来組、炭労の現地対策委員会とともに十三日入坑、三川鉱の現場を調査した。そしてその日のうちに会社側をたずね、明らかな保安軽視の事実をあげて、「今後はもっと保安を真剣に考えるよう」厳重に申し入れた。

なお右調査団に参加したのは、細谷団長のほか中西績介代議士、小野明参議院議員、長谷川為美福岡県議、阿具根登参議院議員秘書の前島秀信さん、それに炭労の大江次長、福岡県総評の坂本隆幸次長。三池労組から田口芳博労働部員が同行した。

東執行委員が逝去

多くの功績残しながら

かねて久留米大学に入院中だった執行委員で組織担当の東実義さんは、六月四日、専門医師団の手厚い処置や加療、身うちの人びとの必死の看護も空しく容態急変。翌五日ついに惜しまれながら息をひきとっていった。断腸の思いを押さえることができない。東執行委員は、昭和二十一年の三池労組結成以来職場や地域の仲間から信頼され、三池闘争以来は特に闘いの先頭にあった。四十六年からは元本所指導部の指導部長として闘い、功績を残した。七日大牟田市臼井新町二丁目一二〇、一〇七棟の自宅で営まれた葬儀には、遠い地からも多くの人びとがかけつけ別れを惜しんだ。遺族に未亡人の結成以来職場や地域の仲間から信敬子さんに二人の娘さんがある。

なかま

職場十九分会（三川）田畑アサエさん

▼…田畑さんはいまだに独り身で、職場の人気者です。若いときから母親替りとなって一家の面倒をみてきたための独り身。生来の明るい性格が、いつも周囲に笑いをふりまいています。

▼…趣味は旅行。大勢で騒ぐのが好きなよし。荒尾市の助丸に、弟嫁さんとその子供（二人）との四人暮らし。

▼…「このように長く勤めることができたのも、職場の仲間たちのお陰です」、感謝の気持を忘れない田畑さんです。

いよいよ来年が定年。「定年で退職後は、失業保険や厚生年金をもらって畑仕事をするくらいでしょうね。当分は少しさみしい思いでしょう」、と話してくださいましたが、第二の人生のスタートに当り、素晴らしい男性の出現をも秘かに願っているらしい田畑さんに、「だれかいい人いないかな？」とは、職場の同僚たちの言葉です。いつまでもご健康で。

（この項町住郎・記）

田畑さんは54歳。荒尾市下井手助丸に居住。勤続すでに40年以上。

三池炭鉱の自家発電所建設計画について（2）

被害者の立場で考えよう

硫黄分はなぜ低く示されているか？

職場24分会（本所）　武松輝男

×××

何物にも代え難い人間の命

昭和五十六年三月二十日、エネルギーと環境問題懇談会は、エネルギー政策と環境政策についての、その基本的な考え方を次のように提言している。

「まず第一に、人の生命・健康は何物にも代え難いものであり、いかなるエネルギー供給の変化があろうとも、その結果人の生命・健康を脅かす環境汚染が発生するような事態を容認するわけにはいかない。また、環境影響が人の生命・健康を脅かす段階にいたらない場合であっても、エネルギーの使用に伴って生ずる環境負荷の増大により環境の改変が無秩序に進み、環境の総合的な良好さや長期的な安定がそこなわれることも是認することはできない。

今までの経験からもわかるとおり、環境は有限で貴重な資源であり、公害や自然破壊が発生した後になってこれを除去・回復しようとしても、回復が不可能であるか、またはぼう大な費用をもってして、なおその完全を期し難いことがあることを、この際改めて強く認識しておく必要がある」

重油から石炭へという、エネルギー利用の趨勢に乗って、石炭火力発電所を新築しようとするものは、この提言にそって、良好な環境の恵沢を享受できるように、最大の努力を傾倒しなければならないことはいうまでもない。

数値もとりようでは……

ところで、石炭火力発電所について、そこで使用する石炭は五八～六二粉炭（硫黄分二・六～三％）と、微粉硬（硫黄分二・二～二・八％）混合して、新しい五〇粉炭（五千カロリー粉炭）をつくるが、その硫黄分は、実際は二・七～二・八％を安全側にして三％として使用する、と行政当局へ説明している。

しかし、非常におかしなことに、三池炭鉱が昭和五十三年および五十五年に公表している現状報告をみると、五八～六二粉炭の硫黄分は三・一～三・六％と高く、微粉硬の硫黄分も二・四～三・一％といずれも高い。

石炭の硫黄分というのは、埋蔵場所や埋蔵状況によって大きな違いがある。こうした石炭を燃料として使用する場合、硫黄分の低い方の数値をとるか、高い方の数値をとるかで、公害の原因物質のひとつである硫黄酸化物の発生量も相当違ってくる。

たとえば、三池炭を専焼している三井アルミ発電所は、その報告の中で「燃料が石炭であるため、重油ほどに硫黄分が安定していないことは、第三図をみても明らかである」と、排煙脱硫塔入口の硫黄酸化物の濃度記録を図示しているが、そこには最高と最低が五〇〇PPMも違っていることが示されている。

×××

誤まてば破滅の道へも……

このように、石炭中の硫黄分が多いと、石炭を燃やすときに発生する硫黄酸化物が多くなるのは当然である。であるならば石炭自家発電所では三池炭鉱が公表している、石炭中の硫黄分の最も高い数値である三・六％、それを安全側にみて四％とし、とくに三池炭の中に含まれる硫黄分のバラツキが大きいことも考慮に入れて、環境保全対策を講じなければならない。これが提言にそう道でもある。

ところが、右のような、姑息な手段を用いた公害対策は、馬脚をあらわしてくるのが常であるが、それはやがて、石炭産業そのものの社会的信用を失墜させていくもので、石炭火力発電所をつくりたいと、石炭中の硫黄分を低目にいって、なりふりかまわず旗を振ると、それがひいては石炭そのものの破滅の道に通じていくことを、この際、肝に銘じておくべきである。